能登半島地震・被災者支援プログラムの報告（第 22 回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024 年 9 月 18 日（水）～9 月 21 日（土）
■ボランティア参加者数：20 名
■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
9 月 19 日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	10 名
9 月 19 日（木）	穴水町甲地区　兜公民館	20 名
9 月 19 日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	19 名
9 月 19 日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	6 名
9 月 20 日（金）	穴水町志ケ浦地区 志ケ浦コミュニティセンター	14 名
9 月 20 日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	41 名
9 月 20 日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	29 名
9 月 20 日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	32 名

■被災者の声（主なもの）
・震災前は畑仕事が忙しくて、手が回らず、犬の世話をしていなかった。今は時間が出来て、犬の世話ができている。今まで世話をせず、かわいそうなことをしていたなと思う。犬と一緒に２か月避難した。
・まさか、自分が仮設に入ったり被災者になるとは思わなかった。子供には相手の立場になって考えなさいというが、初めての、まさかだった。
・サロンでみんなが話したり、笑顔でいる姿をみられて楽しいし、嬉しい。誘ってくれたから頑張って来ることができた。おかげで楽しむことができた。
・建て替えするのにも膨大なお金がかかる。建て直したいと思っても、今の場所はもう地盤が緩いからやめておけと家族に言われてしまう。
・自宅が壊れた時に、心が壊れた。このようなコミュニケーションの場は絶対に必要。ボランティアには本当に感謝している。
・私たちのためによくしてくれてありがとう。だけど自分はサロンへは行けない。被害状況が異なる中で、いろいろな人の話を聞くのは堪えられない。
・畑は無事だったが、道路が損壊したため機械を畑に入れることができなくなった。この歳になると、仕事を再開する気力がない。小さな頃から大きな家に住んでいたが、地震で家が倒壊したため仮設に住むことになった。仮設は狭すぎて心が窮屈。家にあった家財はほとんど捨てることになり、胸が痛んだ。
・仮設住宅では隣の音が全然聞こえない。雨の音も全然聞こえない。雨の跳ね返りの音、それだけ。
■ボランティアの所感（主なもの）
・参加者がボランティアとの出会いを大切にしている印象をうけた。
・回数を重ねることでだんだんと場が成熟してきたのか、日常生活を話し込んでいる姿が印象的だった。ボランティア側も気をつかわずいられるのがよかった。
・大学生のボランティアのように若い人が来ることによって、住民の方が元気になっていると感じた。
・サロンを楽しみにしてくださっている方がたくさんいらっしゃることに驚いた。「本当にありがとう」「元気が出る」などの言葉をいただき、こちらが元気をもらって帰ってきた。